

(様式1)

令和4年5月25日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山視覚総合支援学校
校長 佐伯 英子

令和4年度学校経営計画を別紙(様式2・3)とともに提出します。

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

一人一人の個性や能力の伸長及び病状の改善を図り、社会に適応し自立できる豊かで健全な心身を養う。

(目指す幼児児童生徒像)

- ・障害を乗り越え、生涯にわたって力強く生きようとする人
- ・周囲の人々と適切に関わりながら、社会参加しようとする意欲のある人
- ・自己選択・自己決定ができる人
- ・郷土の自然や文化に親しみ、豊かな人生を送ろうとする人

(教育方針)

- ア 自ら学ぼうとする学習態度を育成し、基礎的な学力の伸長及び知識・技能の定着・向上に向けた指導・支援を行う。
- イ 社会参加の意欲と自主・自立の精神の育成に努める。
- ウ 基礎的な体力の向上を図り、健康で安全な生活を営むための生活態度の育成に努める。
- エ 様々な体験活動を通して、協調性と創造的活力を養い、豊かな人間性の育成に努める。
- オ 地域社会との連携を密にし、共生社会の実現に向けた教育の推進に努める。

2 学校の特徴

本校は、県内唯一の視覚障害教育を行う学校として、幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科と、あん摩マッサージ指圧師の国家資格取得を目指す高等部保健理療科、専攻科保健理療科、さらに、はり師・きゅう師の資格取得も目指す専攻科理療科を設置している。

高等部普通科は視覚障害と併せて病弱も対象としており、視覚障害と病弱の二つを教育の対象としている全国唯一の学校である。幼児児童生徒の自立と社会参加、共生・共育の理念の具現化を目指して、学部間・家庭・関係機関等との連携を図りながら、個々の教育的ニーズに応じた指導を推進している。

また、視覚障害教育と病弱教育のセンター的役割を担っており、視覚障害教育については視覚障害教育支援センターを開設し、県内全域の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校等への支援を行っている。通級による指導、早期教育相談、中途障害者の相談、福祉機関・各種ボランティア団体等との連携にも積極的に取り組み、視覚障害教育の充実を目指している。病弱教育については、中学校や適応指導教室、医療機関等と連携を図り、理解啓発に努めている。

3 学校の現状と課題

(1)現状

- ・高等部普通科において、生徒は配慮されながら守られて学校生活を送るため、進学や就職により社会に出た際に在籍中とのギャップで学業や仕事を続けられなくなった生徒が少なくない。
- ・理療科生の入舎が増加しており、寄宿舎生の年齢が高まっている。

(2)課題

- ・高等部普通科において、卒業後の生活への橋渡しとなるような社会「体験活動を行う機会を設定する必要がある。
- ・生徒や保護者からの進路相談に丁寧に対応し、情報提供を十分に行っていく必要がある。
- ・寄宿舎において、卒業後の社会生活につながるような生活指導を年齢に応じて行う必要がある。